

地域研究の

開催趣旨

地域研究とは何か。海外のさまざまな現象を研究する「地域研究」が、日本で学問として市民権を得ようになり、半世紀近くが経つ。欧米の「エリア・スタディーズ」が冷戦期の戦略的な志向をもち、その学術性に疑問が投げかけられがちなのに対して、日本の地域研究は、より幅広く、特定の利害関係から自由な、豊かな学問として発展してきた。海外の現象から得られる「発見」。世界のなかに自らをおくことで可能となる「相対化」。海外のさまざまな事象を比較して、一般則を見出す「比較」。そしてそれぞれの地域の文化、社会の独自性を知ること前提とする「多文化共生」。グローバル化された現代社会に、地域研究は不可欠である。

本シンポジウムでは、中央アジア、オセアニア、EU、東南アジアを舞台に、長年「地域研究」に携わってきた専門家が、それぞれの地域研究の「粋」を語る。同時に、同じ地域研究でも、それぞれが専門とする学問分野の違いによって多様なアプローチがあることを、報告から感じて欲しい。

プログラム

▶13:00 開会の辞・司会

武内 進一（日本学術会議第一部連携会員、日本貿易振興機構アジア経済研究所
地域研究センターアフリカ研究グループ長）

▶13:05 趣旨説明

酒井 啓子（日本学術会議第一部会員、千葉大学法経学部教授）

▶13:20 第1報告

小松 久男（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学特任教授）
「中央アジア地域研究の試み—ソ連時代の記憶を中心に—」

▶13:55 第2報告

関根 政美（日本学術会議第一部連携会員、慶應義塾大学法学部教授）
「オセアニア（オーストラリア）の国際移民と多文化共生」

▶14:30 休憩

▶14:40 第3報告

羽場 久美子（日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際政治経済学
研究科教授）

「グローバル時代におけるEUの境界線とナショナリズム」

▶15:15 第4報告

末廣 昭（日本学術会議第一部連携会員、東京大学社会科学研究所教授）
「グローバル化とネット情報は地域研究を無用にしたか？
タイ研究者の視点から」

▶15:50 休憩

▶16:00 総合討論

▶16:55 閉会の辞

田中 耕司（日本学術会議第一部会員、京都大学特任教授、学術研究支援室長）

主催 日本学術会議地域研究委員会地域研究基盤整備分科会

共催 地域研究コンソーシアム (JCAS)、

京都大学地域研究統合情報センター (CIAS)、

NIHU プログラム イスラーム地域研究東京大学拠点 (TIAS)



を味わう

—— 現地から 中央アジア、
オセアニア、EU、
東南アジア を読む ——

日時：平成25年11月17日（日）

13:00 ~ 17:00

場所：青山学院大学総研ビル12階大会議室

会場アクセスマップ



東京都渋谷区渋谷 4-4-25
JR山手線「渋谷駅」より徒歩10分
東京メトロ「表参道駅」より徒歩5分